

グローバル探究Ⅱ（2年生）の取組

第23回～第27回 ポスター・発表原稿作成、発表練習（12/8～2/2）

12月以降は、ポスター発表に向けてポスター(Google スライド)や発表原稿を作成しました。探究内容を分かりやすく伝えられるようにポスターの色遣いやレイアウトに工夫を凝らしたり、5分の発表時間でいかに聞き手を惹きつけることができるかを考えたりして、各班で話し合いを重ねました。



第28回 クラス発表会(2/9)

2月9日は、各クラスでクラス発表会を行いました。各クラス1位のチームは翌週の本選へ、そして5位までのチームは3月12日の成果発表会でポスターセッションを行います。



第29回 本選:クラス代表チームの発表(2/16)

2月16日は、各クラスの代表チームと、ローコストサイエンス部門1位のチームによる本選（学年代表決定）を行いました。管理職の先生方や学年主任、グローバル教育部長、生徒サポート部長、ICT教育部長の先生方を審査員としてお迎えし、緊張する雰囲気の中、各班が発表をしました。各クラスの代表チームということもあり、ポスター、内容、発表態度全てにおいてレベルが高く、質疑応答の姿も堂々としていました。発表者以外の生徒は、各教室にZoom 配信された映像で発表を聞きました。審査の結果、112班（1H 今橋さん・中嶋さん）の『「ミルク缶×貧困」 ～東ティモールに笑顔を～』が学年代表に選出されました。



成果発表会リハーサル(3/11)

3月11日は、翌日の三校合同探究成果発表会に向けてのリハーサルを行いました。本番さながらの雰囲気に緊張する中、どのチームもクラス発表や本選からさらに工夫を加えた内容で発表練習を行うことができました。練習を聞いた生徒たちは、それぞれのチームの発表について良かった点や改善点を付箋に書いて渡し、各チームにエールを送りました。

第30回 G探IIの振り返り・3年次に向けて(3/17)

3月17日のグローバル探究では、今年度の振り返りと3年次のグローバル探究Ⅲの内容についてグローバル教育部の先生から話があった後、進路指導部長からも受験とグローバル探究を絡めて話がありました。3年次では、リサーチペーパー（個人論文）を作成し、夏以降はWALK PLANという進路実現に向けての取り組みとなります。今年度のプロジェクトを継続して論文化、もしくは進路に直結する内容を新たに論文化するという内容になります。探究活動で得たスキルは、今後の学力定着や進路実現に向けても十分使っていけるものです。3年生でもグローバル探究での皆さんの活動に期待しています。

学校外での取り組み

[Glocal High School Meetings 2022]

この大会は、グローバル型地域協働推進校の生徒が日頃取り組んでいる「グローバルな視点をもって地域課題の解決に挑む提言や実践」を日本語や英語で発表・共有する場を設け、普段直接交流する機会が少ない全国の高校生が集まり、新たな気づきを得たり、ネットワークを構築したりして、今後のグローバル探究の深化や意欲の向上を図ることを目的としています。2-3田邊君・山本君が日本語部門で「地方商店街の復興～ICTを活用したいの町商店街の活性化に向けて～」について発表し「銀賞」を、2-2河崎君・佐竹君が英語部門で「To revitalize the Onomi area」について発表し「銅賞」を勝ち取りました！おめでとうございます！



【出場生徒の感想】

2-3 田邊君

僕たちは、夏ごろからコンテストに向けて取り組んできました。残念ながら金賞には至りませんでした。銀賞をいただけて大変嬉しく思っています。探究活動の一環として、いの町に行ったことが楽しかったです。また、コンテスト直前には、プレゼン資料の拡充にとっても力を入れました。今後もSDGsに目を向けて世界の問題に取り組んでいきたいです。

2-3 山本君

惜しくも銀賞でしたが、この1年間とても頑張ったと思います。ICTを活用して、どのようにいの町を活性化していくか考えるのが大変でした。いの町商店街だけでなく、全国の地方商店街の活性化につながるような取り組みを考えていきたいです。

2-2 佐竹君

受賞できて誇らしいと同時に、挑戦したことが結果に表れて嬉しいです。テスト勉強、レポート、ポスターと並行してコンテストの準備があったので大変でした。英語での発表も大変でしたが、先生方の手厚い協力によって発表も無事成功して感謝の気持ちでいっぱいです。この探究を今後も地域活性化の目標のもとに続けていきたいです。

2-2 河崎君

嬉しい気持ちでいっぱいです！意見を出し、データを集め、オリジナルの解決策を見つけることが楽しかったです。また、明確かつ具体的な課題を発見することが大変でした。そんな中、大切だったのは佐竹君の存在です。彼がいなかったらこの結果には辿りつけませんでした。感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を生かし、今後も探究活動に取り組んでいきます！



↑ 英語部門入賞の河崎君、佐竹君



フードドライブボックス実践の報告

2-7の大川さん、竹内さんが、「貧困地域に対しての支援方法」をテーマに探究活動を行う中で、NPO 法人こうち食支援ネット様が行っている「フードドライブボックス」を実践しました。これは家庭や企業での不要な食品や日用品を回収し、それらを必要としている人たちに支援するというものです。1月31日～2月10日の約10日間、学校内にその回収ボックスを設置し、生徒や教職員、またご家庭にも支援を呼び掛けたところ、予想以上にたくさんの食品・日用品が集まりました。その後、大川さんと竹内さんは集まった支援の品をこうち食支援ネット様へお渡しし、今後それらを必要としている人たちへこうち食支援ネット様から送っていただけることになっております。こうち食



支援ネット様、そしてご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

この活動を通して、身近なことや小さなことから行動していくことが大切だと実感しました。フードロスは大きな問題ですが、私たち学生でも簡単に貢献できるので、ぜひ皆さんにも行動してもらいたいと思います。



2021年度「食」のサミット 参加報告

同じく2-7の大川さん、竹内さんが、3月11日と12日に行われた『2021年度「食」のサミット』へ参加しました。これは、各国を代表する中高生が、地球規模の課題「食」に関する解決策を議論し、結果をまとめ提言書を作成することを目的としています。また、その提言書は後日、国連 WFP 協会へ提出することで取り組み成果を世界へ発信できるようになっています。また、全ての発表を英語で行うものです。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、今年度もオンライン開催となりましたが、福岡県内外の高校はもちろん、海外からはモンゴルやウズベキスタン、マレーシアの高校生の参加もありました。

初日はプレ会議にて各チームが発表の概要を2分程度で発表し、質問やアドバイスをグループに分かれて出しました。2日目は、前日に得たアドバイスを盛り込み、5分間で本発表をしました。

大川さんと竹内さんは、上記のフードドライブボックスの活動についても発表できる場となり、この1年間の探究活動を自信をもって発表しました。

